

令和6年度の雪対策の取組について

資料2-2

1 除排雪事業の業務体制

主な取組内容

(1) 除雪センターの集約と充実

○管理機能の集約と充実及び合理的な運営手法の構築

- ・中央地区ほか2除雪センターの試行的集約〔新規〕
(市内4統合地区、7除雪センターによる業務体制)
⇒スケールメリットにより、常駐の人員が縮小が図られた。
試行に係る問合せ等は無いなど、集約に伴う影響は特に確認されなかった。
- ・管理機能や改善要望窓口の集約、パトロール体制の拡充〔拡充〕
⇒地区全体の状況を早期に把握により、要改善箇所の速やかな対応が図られた。
- ・除排雪業務の進捗状況に応じた速やかな応援体制の確保〔継続〕
⇒状況に応じた応援体制により、地区全体の円滑な除排雪作業が図られた。

(2) 除雪DXの推進

○除雪作業の省力化や効率化による生産性の向上

- ・積雪センサー等IoT機器による積雪状況監視・通報システムの構築〔新規〕
(旭川空港アクセス路線1箇所にて運用開始)
⇒遠隔地で現地の状況等が確認可能となり、パトロール業務の効率化が図られた。

○除排雪作業の安全性の向上による働きやすい環境づくり

- ・郊外を担当する除雪車両3台(東旭川、東鷹栖、神居地区)に映像鮮明化装置を
配備〔拡充〕(令和5年度 西神楽地区1台配備済)
⇒視界不良時の作業の安全性向上が図られた。

○改善要望への対応力向上

- ・くらしのアプリ内に通報フォームを新設〔新規〕
⇒位置情報や画像が添付され、従来の電話通報に比べて現場状況の速やかな
把握、対応が図られた。

今後の方向性

◎持続可能な除排雪体制の構築

担い手不足等の課題や働き方改革に対応した安全で効果的な業務体制の構築

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・効率的なセンター運営に向け、業務体制の見直しや地域との協議を行いながら
主センターへの更なる集約等を検討

(2) 除雪DXの推進

- ・郊外定点観測地12箇所にIoT機器増設し、郊外パトロールの省人化を推進
- ・通報フォームの活用拡大による効率的な除排雪作業、要望処理等の推進

(3) 除排雪作業における安全性向上の強化

- ・令和7年1月の排雪作業中に発生した事故を踏まえ、除排雪作業の安全性向上
を図り、働きやすい環境づくりを推進

2 路面管理対策

主な取組内容

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

○集中的な降雪等に対する対応

- ・計画的対応 体制を強化したパトロールにより路面状況を把握[12、1月]
暖気によるザクザク路面の早期改善に向けた体制構築[12、1月]
- ・予防的対応 集中的な降雪対策として事前に拡幅作業実施[11、12、2月]
路面悪化の予測時に圧雪を取り除く作業の実施[1月]
- ・情報発信 路面悪化や対応状況に係わる情報をSNS等で発信[随時]
⇒上記対応により、初冬期(12月)における広範囲な路面の悪化を抑制した。

○季節外れの暖気や降雨など気候変動への対応

- ・1月7日から16日にかけて気温が高く推移し、市内一円でザクザク路面の発生が徐々に広がった。3学期の始業日に向け通学路等の排雪を進めながら昼夜にわたり解消作業を実施した。

(2) 生活道路の排雪強化

- ・温暖化傾向で融雪が進んだことから、パトロールにより状況確認しながら必要な路線について2回目の排雪を実施した。

今後の方向性

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

近年の温暖化傾向など気候変動を見据えた対応の強化、体制の確保

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・生活道路の排雪作業に着手する前の初冬期における降雪状況を踏まえた計画的対応の強化
- ・温暖化傾向に伴うザクザク路面発生の対応のため、蓄積したデータの解析・検証を踏まえた予防的対応の強化
- ・路面悪化や対応状況に係わる情報発信の強化

(2) 生活道路の排雪強化

- ・気象状況や路面状況に即した排雪の強化